

ナミカ嶺

裸體佛

十九日午前七時發、同八時三十分、左折して一小谷畔を上行し、同九時五十分小嶺ナミカの麓に達し、同十一時十分之を越え、行程約十四哩にして午後一時モウルペーの『バンガロ』に到る。モウルペーの中央稍々偏西の河岸、灌木鬱蒼の裡に、峭立せる綠泥岩に彫刻したる丈餘の裸體佛像は、雄渾古雅、頗る崇高なり、何時何人の手に成れるや。當村は人家約二十戸、『チーハン』の小なるもの處々に叢生す。ナミカ嶺はポトラ嶺と同じく、登降坂路共に緩なり。氣温午前三十三度、午後は五十度内外とす。

二十日曇天、午前七時出發し、同九時三十分一部落を、同四十五分又一部落を、十一時三十分更に一大部落を通過す、其の西端より急坂に臨むも、距離小なり、上り盡せば坂上臺地を成す、午後一時三十五分坂を下る、直下に橋あり、カルギル橋と名づく。同一時五十分カルギルに着す、行程約二十四哩、馱馬後れて三時二十分始て來る。

カルギル
はレールに
亞くの大
部落

カルギルは人家約百二十戸、郵便、電信兩局の設け有りて、山中レールに次ぐの部落にして、西道のギルギットに捷徑を有し之に電線を通するを以て一の要衝たり。此地附近よりは、『ボット』人漸く減少してカシミヤ人多し。且つ此處にて乗馱馬